

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 79人

② 算数 79人

#### 5 留意事項

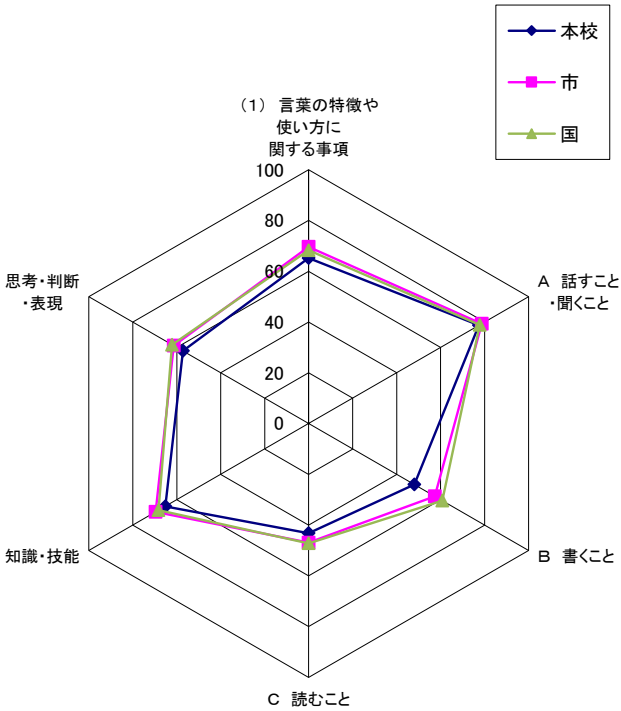
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 65.2 | 69.6 | 68.3 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    |      |      |      |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 77.4 | 78.7 | 77.8 |
|     | B 書くこと             | 48.1 | 57.3 | 60.7 |
|     | C 読むこと             | 43.2 | 46.9 | 47.2 |
| 観点  | 知識・技能              | 65.2 | 69.6 | 68.3 |
|     | 思考・判断・表現           | 57.2 | 61.4 | 62.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

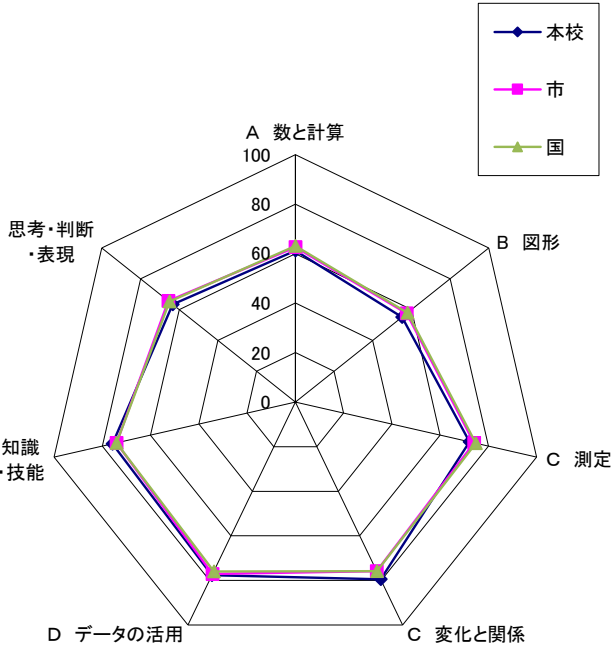
| 分類・区分              | 本年度の状況                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使いに関する事項 | 平均正答率は65.2%で、市平均より4.4ポイント低い。<br>●文の中における主語と述語の関係を捉える問題では、市の平均正答率より5ポイント以上低い。<br>●漢字の書き取りや語句の意味に関する問題では、市の平均正答率より4ポイント以上低い。                              | ・日常生活の中で適切に漢字を使うことを意識させ、文章を書いた際は、漢字の使い方に誤りがないか確認したり、児童同士で教え合ったりする機会を設けていく。<br>・漢字小テストを定期的に行ったり、AIDリルを活用したりして、既習漢字の読み書きの確実な定着を図る。<br>・物語文や説明文において、主語と述語の関係をとり上げ、主語と述語のつながりを意識できるようにしていく。                                |
| A 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は77.4%で、市平均と同程度である。<br>○スピーチの構成や話す内容について適切なものを選択する問題では、市の平均正答率と同程度であった。<br>●スピーチに使用した資料について、用いた理由を選択する問題では、市の平均正答率より5.7ポイント低い。                     | ・調べたことを報告したり説明したりする学習では、目的に応じて図表やグラフを選んだり、本や文章を引用したりするなど、資料の用い方や効果的な表現の仕方について指導していく。<br>・国語科を中心に、様々な学習活動において話し合い活動を意図的に多く取り入れる。その際、話し手の意図を捉え自分の考えと比較しながら聞いたり、自分の考えを明確にして話したりすることを継続して指導していく。                           |
| B 書くこと             | 平均正答率は48.1%で、市平均より9.2ポイント低い。<br>●文章全体の構成について適切な説明を選択する問題では、市の平均正答率より12.5ポイント低い。<br>●与えられた条件をもとに文章を書き直す問題では、市の平均正答率より5.9ポイント低い。                          | ・文章を書くことに苦手意識をもつ児童が少なくないので、宿題等で日記を書いたり、学校行事等の振り返りを書いたりするなど、日常的に文章を書く機会を増やしていく。<br>・自分の考えが相手に分かりやすく伝わる文章が書けるように、文章の構成や表現の仕方について継続して指導していく。また、複数の資料の中から条件に合う箇所を探したり、必要な情報を取捨選択したりして、定められたテーマや字数で文章をまとめて書く活動を意識的に取り入れていく。 |
| C 読むこと             | 平均正答率は43.2%で、市平均より3.7ポイント低い。<br>○文章の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する力を問う問題では、市の平均正答率と同程度であった。<br>●資料を読み、必要な情報を見付け文章にまとめる問題では、市の平均正答率より10ポイント低く、無回答率も9%で、市の割合よりも高い。 | ・目的に応じて文章の中から必要な情報を見付けて読む能力を育てるため、中心となる文やキーワードとなる語を見付けながら読む、図表と結び付けて読む、読み取った内容を要約して書くなどの活動を意図的に増やしていく。<br>・読んで分かったことや感じたことなどについて友達と交流する場を意図的に設定し、対話的な学びから自分の考えを深めることができるようにする。                                         |

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算        | 61.2 | 62.6 | 63.1 |
|    | B 図形          | 55.1 | 57.5 | 57.9 |
|    | C 測定          | 72.2 | 74.1 | 74.8 |
|    | C 変化と関係       | 79.5 | 75.8 | 75.9 |
|    | D データの活用      | 77.7 | 77.1 | 76.0 |
| 観点 | 知識・技能         | 75.8 | 74.1 | 74.1 |
|    | 思考・判断・表現      | 63.4 | 65.6 | 65.1 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                                    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と計算   | 平均正答率は61.2%で、市平均と同程度である。<br>○場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算する問題では市の平均正答率より2.7ポイント高い。<br>●除法の結果を日常生活の場面に即して判断する問題では、市の平均正答率より7.1ポイント低い。                     | ・示された式の計算を行うだけでなく、示された除法の結果について、日常生活の場面に即した判断をする発問や問いかけを行う。<br>・数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を考える場面では図や数直線を用いて考えることで多面的に捉えることができるよう指導していく。                 |
| B 図形     | 平均正答率は55.1%で、市平均より2.4ポイント低い。<br>●複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述する問題では、市の平均正答率より3.1ポイント低く、無回答率が10.3%であり、市の平均より5.6ポイント高い。                             | ・図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見出す力を育むため、授業の中で図形の観察や構成、作図などの活動を意図的に増やして、図形の見方を深める。<br>・図形を組み合わせた図形、分割したりして基本図形の面積の求め方を見出すなど、面積の求め方を考察し式で表現して、面積の求め方について説明し合う活動を行っていく。 |
| C 測定     | 平均正答率は72.2%で、市平均と同程度である。<br>●二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く問題では、市の平均正答率より2.5ポイント低い。<br>●直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ問題では、市の平均正答率より2.2ポイント低い。               | ・量と測定の方法を日常生活に生かす力を育むために、様々な具体物についての大きさを測定したり比べたり見積もったりする活動を取り入れていく。<br>・長さ、広さ、かさ、重さの概念と単位の感覚を身に付けるため、直接比較や間接比較を通して、実感を伴った理解を促す。                            |
| C 変化と関係  | 平均正答率は79.5%で、市の平均正答率より3.8ポイント高い。<br>○速さを求める式の意味について正しいものを選択する問題では、市の平均正答率より6.3ポイント高い。<br>○速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題では、市の平均正答率より3.2ポイント高い。              | ・速さが一定であるときの道のりと時間の関係のような具体的な場面において、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、その関係性を考えることで更なる理解を深める。                                                                               |
| D データの活用 | 平均正答率は77.7%で、市平均と同程度である。<br>○棒グラフの読み取りや二次元表への分類ではいずれも市の平均正答率より2.0ポイント以上高い。<br>●帯グラフから違いが大きい項目を記述する問題では、市の平均正答率と同程度だが、無回答率が20.5%であり、市の平均より9.0ポイント高い。 | ・統計データの特徴や傾向を捉えて、結論について授業の中で意見を出し合う場を意図的に設けることにより、データを注意深く読み取る力や多面的・批判的に考える力を育む。<br>・データを二次元表や度数分布表に表したり、読み取ったりすることを通して、データの要点を端的に捉えることができるようにする。           |

## 宇都宮市立御幸小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強しているか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は82.5%で、県の肯定的回答の割合と比べると3.8ポイント高い。家庭学習を記録し、児童と保護者がその記録を確認することができるようにした成果であると考えられる。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか」という質問に対して、肯定的回答をした児童の割合は91.3%で、県の肯定的回答の割合と比べると3.9ポイント高い。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」という質問への肯定的回答も約8割となっており、多くの児童が目標をもって活動に取り組んでいると言える。学級での活動だけでなく、児童会活動等もコロナ禍で制限がかかる中、それぞれの目標を決めて活動に取り組んでいる成果が表れている。

●「人が困っている時は、進んで助けている」と回答した児童の割合は83.8%で、これは県の肯定的回答の割合と比べると7.7ポイント低い。コロナ禍の影響で、人と関わる機会が減少していることもあり、友人同士や児童会活動等での他学年との交流ができない状況が続いていることも原因の一つとして考えられる。しかし、「人の役に立つ人間になりたいか」「友達と協力するのは楽しいと思うか」という質問に対しては、9割を超える児童が肯定的回答をしており、人との関わりに意欲的に思っている児童は多い。授業や、児童会活動、縦割り班活動での直接的な交流だけでなく、タブレット等のICT機器を生かし、間接的にも児童間で交流できる機会を増やしていき、他者を理解し、助け合い協力する大切さを感じることができる指導をしていきたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」という質問に対して、肯定的回答をした児童の割合は62.5%で、県の肯定的回答の割合と比べると11.1ポイント低い。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という質問に対しての肯定的回答が、県と比較すると大きく下回っている。一人一台端末の配付に伴って、様々な形態での意見交流ができるようになった。今後はタブレット機器を用いて、自分の考えを深める活動や、友人と意見交流をする機会などバリエーションを増やし、自分と異なる意見について考えられるよう支援していきたい。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が73.8%となっており、県の肯定的回答の割合と比較すると4.4ポイント低い。コロナ禍の中、学級での生活を通して多くの規制が要求されていることで、生活への不安・不満が生じていると思われる。学級、学年、学校の行事等での活躍の場を多く設定し、自分の役割を果たす機会を増やすことで、今後の課題を明確にし、努力すべきことを見つけて取り組むことができるよう指導をしていきたい。

## 宇都宮市立御幸小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組              | 取組の具体的な内容                                                                                                                       | 取組に関わる調査結果                                                                     |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 | <ul style="list-style-type: none"> <li>音読活動の充実</li> <li>朝5分読解ドリルの活用</li> <li>ステップアップシートの実施（年5回全校実施）</li> <li>朝の学習の充実</li> </ul> | 漢字の書き取りや語句の意味に関する問題で、市の平均正答率を下回っている。計算問題については、市の平均正答率と同程度であり、基礎的内容はおおむね定着している。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                            | 重点的な取組                            | 取組の具体的な内容                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分の考えを述べる問題や式の意味を説明する問題では無回答が多く見られ、平均正答率が市より下回るものが多かった。 | 児童一人一人が自分の考えをもち、自分なりの方法で表現する活動の充実 | 授業において、どの児童も自分の考えをもてるように、発問の仕方やワークシートを工夫する。また、ペア学習や1人1台端末を利用した学習を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合い学び合える場を設けることにより、表現力を伸ばし、考えを広げ深められるようにする。 |